象徴でもあった。近年、その石垣の孕み出しが顕著となり、解体と積み直しによる修復が行われることとなった。現況調査、発掘調査、解体、積み直しが修復箇所ごとに繰り返され、東面、北面、西面の順で整備が行われ、平成27年度に竣工した。積み直された石垣面積は約230㎡であった。なお、石垣解体の結果、出櫓台は、細尾根の整形された岩盤の周囲に石垣を積み上げて構築されていることが判明した。

解体前の出櫓台

解体中の出櫓台(内部は岩盤)

出櫓台竣工時

現在は、出櫓台下の「搦*裏口め手城道」の、崩壊した黒門跡石垣周辺の整備が進められており、先行する発掘調査では、崩落土に埋没していた築石*積み石、黒門礎石、石組の排水溝などが検出され、崩壊・埋没により詳細が不明であった黒門の位置や規模が明らかになりつつある。

山上からの眺めは素晴らしく、澄んだ日には、西に日本海に浮かぶ佐渡島、東に会津磐梯山などを一望にできる。

(2019.3.15)

村上城歴代城主

(村上家 9) (堀家 10) (本多家 10) (松平家 15)
本庄繁長-村上頼勝-忠勝-堀直竒-直定-本多忠義-松平直矩-

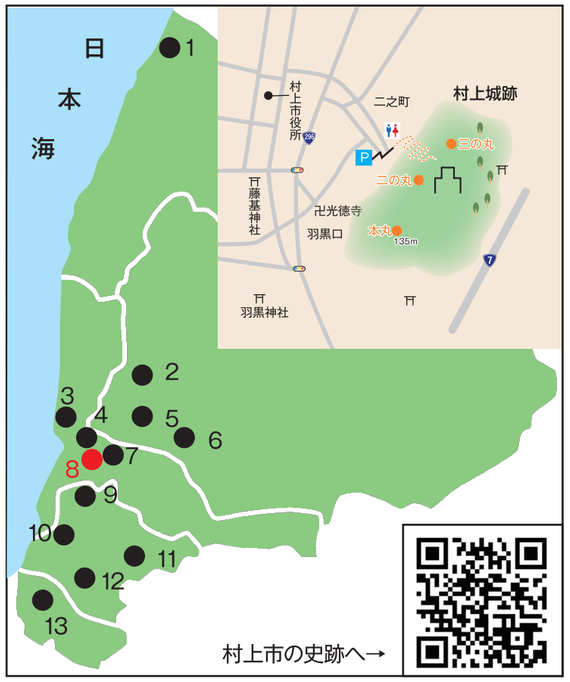
(榊原家 15) (本多家 15→5) (松平家 7.2) (間部家 5)
榊原政倫-勝乗-本多忠孝-忠良-松平輝貞-間部詮房-詮言-

(内藤家 5)
内藤弐信-信輝-信興-信旭-信凭-信敦-信親-信民-信美

版籍奉還

*数字は石高(単位:万石)

村上市の城館



※上記地図の白線は旧市町村境

1. 大川城跡(中世)小泉荘最北の国人領主大川氏の居城
2. 猿沢城跡(中世)村上城と並ぶ本庄氏の居城
3. 間島城跡(中世)海浜部の小規模な山城、城歴等は不明
4. 下渡山城跡(中世)本庄繁長の乱で上杉が奪うが、本庄奪還
5. 大葉澤城跡(中世)鮎川氏の居城、50条余の畝状竪堀群
6. 笹平城跡(中世)本庄繁長の乱で上杉謙信が普請
7. 大館跡(中世)国人領主級の館と考えられるが詳細は不明
8. 村上城跡(中世・近世)本庄氏が築城し、江戸時代には、村上・堀・松平氏等が山上に石垣を張り巡らせ近世城郭へ改造
9. 山元遺跡(弥生時代)日本海側最北の高地性環濠集落
10. 牧目館跡(中世)色部氏が平林城に在住する前の居館か
11. 桃川城跡(中世)色部氏家臣の桃川氏の居城
12. 平林城跡(中世)小泉荘加納を領した色部氏の居城
13. 馬場館跡(中世)奥山荘北条黒川氏の家臣の館か

国指定史跡　続日本百名城

村上城跡

Murakami Castle Ruins

村上市教育委員会　2019

村上城跡本丸空撮

村上城について

村上城は、標高135mの独立峰臥牛山(通称お城山)を中心に築かれた平山城である。起源は16世紀初頭と考えられており、当初は石垣を持たない中世的な城郭で、慶長2(1597)年の瀬波郡絵図では、まだ石垣がなく、木柵に囲まれた「村上ようがい」の姿が描かれている。築城主は、当地の地頭*小泉荘職として関東から入った坂東八平氏の秩父氏を祖とする本庄氏で、戦国時代、本庄繁長のときに最も勢力を得て、北越後の領袖へと成長する。

瀬波郡絵図(慶長2年／1597)に描かれた村上城　米沢市所蔵

永禄11～12(1568～69)年には上杉輝虎(謙信)とも、この地で交戦するが、当時の大手*正面である臥牛山東側に集中する虎口*出入り口・竪堀・腰曲輪*広い平坦面・切岸*斜面を急角度で削った障壁などの遺構群は、上杉戦に備えて整備されたものと思われる。その後、豊臣政権下、徳川政権下初期には、村上氏、堀氏といった大名が入り、山上を中心に長大な石垣を張り巡らせ、城下を整備し、村上城を近世城郭へと変貌させていく。城の大手もこのとき現在の西側に移されている。黒雲母流紋岩の石垣材は、村上城から約10km北の、日本海に面した柏尾の石採場から運ばれたものと考えられる。石積みは「打ち込みハギの布積み*粗加工の石を横目地が通る様に積んだもの」が主体であるが、本丸天守台の一部に、やや古相の「野面の乱積み*自然石を不規則に積んだもの」が看取される。

慶安2(1649)年、播磨姫路から歴代村上藩主中最大の15万石で入封した松平直矩は、更に城下を拡張・整備し、山上部分についても望楼型三層とされる天守の新造を始めに、諸門・諸櫓の造り替えを行った。山上は、本丸・二の丸・三の丸から成る連郭式*各郭を直線状に連ねた縄張り、城下は、臥牛山を背にした本丸御殿を、二ノ丸曲輪・三ノ丸曲輪などが囲む梯郭式*各郭が本丸を基軸にして順に前方へ張り出す縄張りであった。

城主は頻繁に入れ替わり、幕末の戊辰戦争では、内藤家の交戦派の家老鳥居三十郎らが、奥羽越列藩同盟に依り、新政府軍と羽越国境*新潟と山形との県境方面で戦う。天守は、寛文7(1667)年、落雷により焼失、他の門・櫓なども、火災や明治初期の払い下げなどにより消失して現存していないが、政庁機能は廃藩まで機能し続けた。東日本では少ない総石垣張りの平山城で、山上を中心とした約3,500㎡の石垣のほか、枡形*敵を封じ込める方形空間・井戸・門礎石などが良好に残っている。

村上城の整備

最初に用いられてから400年以上が経過した村上城の石垣には、随所に孕み出しや石材の損傷が発生している。このため、村上市では、平成11年度から史跡整備事業の一環として、石垣修復工事と、それに伴う発掘調査を複数箇所で継続しており、平成15年度開始の本丸出櫓台跡の石垣修復が最新の成果である。出櫓台は、村上城本丸から突出した最前線の櫓台で、守勢の際の城の命運を左右したと思われる防御施設であり、村上城の